

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3591500032		
法人名	サンキ・ウエルビ株式会社		
事業所名	サンキ・ウエルビ グループホーム周南		
所在地	山口県周南市遠石1丁目10-57		
自己評価作成日	平成23年2月1日	評価結果市町受理日	平成23年6月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成23年3月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

市街地でありながら遠石八幡宮の森も近く、緑豊かな環境の中、地域住民の方の協力を得て夏祭りや餅つきなどの行事に地域の一人として参加しています。また音楽レクリエーションや習字教室などご家族も一緒に楽しんでいます。地域の方によるボランティアも多く楽しみの一つとなっています。自己選択の機会として弁当の日やコンビニでの買い物の日、パンの日として自分の好きなものを選ぶ機会を持つようにしています。
 近隣の小中学校・保育園との交流を行い、またヘルパー要請講座の実習生を受け入れることで広い年齢層の方との交流が行われています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者が、地域とかかわりをもちながら暮らし続けていけるように、家族会行事を年4回開催されたり、2ユニット間の交流行事、地域のボランティアの方や小中学生の来訪、地元の商店街での買い物、地主の方から畑を貸りて野菜を作られるなど、地域の方の理解と協力を得ながら支援されています。すべてのかかりつけ医に、毎月1回「主治医連絡票」を提出し、事業所での支援経過や状況を報告されています。これらの連携をとおして医師からも意見書などを頂いて介護計画に反映され、階段を利用した歩行訓練を行なうなど、日々の生活の場で介護度の改善につながる取り組みをされています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスとして「私たちは家族と協働し地域に開かれたサービスを提供します。」という事業所独自の理念を作り上げている。また、毎日唱和している。	地域密着型サービスとしての事業所独自の理念を作成し、玄関等に掲示し、毎日唱和し共有して、ケアプランに反映させて実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し自治会行事に参加しており、事業所で行う行事やボランティア来所時は地域の人々も参加し、一緒に楽しんでいる。時候の挨拶を交わし、地域の一員として暮らしている。	自治会に加入し、地域の草とりなどに利用者と一緒に参加している。地域の祭りや買い物に出かけたり、ボランティア来所時の催しには地域の人々も訪れ、神社への散歩や野菜作りなどで地域の人々と交流している。小中学生の訪問もあり交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員がキャラバンメイトとなって活動している。地域の方の施設見学など積極的に受け入れている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価の意義について職員全員が共通理解し真摯に取り組んでおり、前年の評価結果を基に勤務の一環としての外部研修の提供や第三者委員を選任している。自己評価は全員で書き込みサブリーダーやリーダー・管理者で取りまとめている。	全職員が評価の意義を理解しており、管理者は自己評価を全職員に記入してもらい、話し合いをした上で作成している。評価を実施することで課題に気づき、具体的な改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催され、様々な提言が寄せられ運営上の参考になっている。ユニットリーダーを書記に置くことで事業所内の活性に繋がっている。ボランティア、利用者家族、利用者本人も参加している。	民生委員、介護相談員、第三者委員、ボランティア、市介護保険課職員、地域包括支援センター職員、他施設代表、家族、利用者、職員等のメンバーで2ヶ月に1回開催し、行事報告、外部評価報告、避難訓練等について意見交換をし、サービスの向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市とは日ごろから行き来しており相談や助言を受けながら、サービスの質の向上に取り組んでいる。	市の担当者とは日頃から連携を図っており、介護保険制度に関する相談を始め、処遇困難事例の対応について相談に行ったり、電話などで助言を受けたりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成し、繰り返して行なわれる研修により職員は理解を深めしており、拘束をしないケアに取り組んでいる。	マニュアルがあり、研修で全職員が身体拘束の内容や弊害を理解している。玄関には鍵をかけておらず、スピーチロック等にも注意し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを作成し、現任研修に組み込んで実践している。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修にて学び、全体会議などで発表している。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	何度でも納得が得られるまで繰り返し説明する機会を持つようにしている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に地域住民や家族代表者に参加していただき、家族会も3ヶ月に1回開催し利用者や家族の意見を外部の方に表せる機会を持ち、改善に向けて努力している。	面会時、電話、隔月の事業所便り、家族会(年4回)、運営推進会議、年1回の家族アンケートなどで、家族等の意見や要望を聞き運営に反映させている。苦情相談窓口や担当者、外部機関、第三者委員を明示し、苦情処理手続きを定めている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議を月1回開催し職員の意見を聞く機会となっている。また議事録を作成し、本社に上げていくシステムとなっている。	管理者は、毎月全体会議を開催して、業務改善に関する職員の意見や提案を聞き、話し合って検討し、その内容を法人に上げて運営に反映させるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	上司との面談の機会を随時持ち、労働組合もあり職員の職場環境としては恵まれていると感じる。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修など外部研修への参加の機会を勤務扱いとして設けている。	内部研修もあり、外部研修は勤務の一環として参加の機会を提供し、復命している。介護専門職としての研修の充実や働きながらのトレーニングの実施までにはいたっていない。	・職員を育てる取り組みの工夫
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム研修会への参加や認知症ケアスタッフ合同研修会等に参加しサービスの質の向上につなげている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行い、ご本人の不安や困っていることについて伺い、出来るだけ不安なくグループホームでの生活が送れるよう配慮している。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族より話を聞く機会を設け、なじみの関係を大切に暮らせるよう、なじみの美容院やお店を利用するなど出来る限り要望に沿うよう対応している。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族、本人、主治医と連携を取り、入居中の生活についてどのような対応が必要か、話し合う機会を設けている。福祉用具業者や他の老人保健施設などの紹介なども行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみ・新聞たたみ・テーブル拭き・調理の一部手伝い(ゴマすり、餃子包み)など職員と一緒にいき、入居者と一緒に生活している仲間として協力しあっている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、食事介助を行っていただき、現在の食事摂取状況の理解をしていただいている。 外食時には出来限りご家族にも参加いただき、一緒に楽しむ時間を持っていただくようにしている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の方の面会も自由に行え、昔を懐かしむ声が聞かれている。また個人的になじみの食堂に行き、同窓会のような経験もある。地域の方の面会も頻回にある。	家族会行事で家族との交流等を「思い出マップ」として作成し、自宅訪問、ふるさと訪問、食堂、神社、花見、買い物等に出かけて馴染みの関係が途切れないように努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人同士で席を決めたり、一緒に洗濯物を干したり畳んだりして、家庭と同じ環境に近づけ楽しみながら生活をしてもらうようにしている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や退所などによりグループホームから離れてからも、職員が面会に伺うなど不定期ではあるが交流を持っている。また、家族がボランティアでギター演奏や話し相手などに来ている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時にしっかりアセスメントを行い、本人の意向、好きなもの、大切なものなどの把握に努め、生きがいを持って生活できるよう、また笑顔が見られるよう関係作りに気を配っている。	日常のふと話された言葉や動作などをケース記録やアセスメントシートに記入し、思いや意向の把握に努めて職員間で共有している。把握が困難な場合は、職員間で話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	必要な情報は前任のケアマネやサービス提供事業所に確認し把握するようにしている。家庭からも情報提供をさせて頂きこれまでの暮らしぶりを把握するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	家庭での過ごし方や状態を把握するとともに施設での様子(通い、泊まり)を総合的に判断し現状の把握に努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の作成は本人を中心に家族の思いが反映できるように努めている。職員会議やケース検討会などで全職員の意見を聞き反映できるように努めている。	毎月1回、モニタリングを行った上でカンファレンスを開催し、家族・利用者、主治医、職員の意見を反映した介護計画を作成して、職員間で共有している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌や経過記録に記載し、情報の共有を図っている。細かな情報も個人記録に記入するように心掛けている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	様々な拠点から現状を把握し、柔軟な発想、柔軟な対応が出来るように取り組んでいる。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員や福祉委員、介護相談員、学校、保育園、地域の店等と協働している。また、地域のボランティアも多く支援を頂いている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のほとんどかかりつけ医へ受診している。主治医へは必要に応じて情報提供したり、急な体調の変化には随時対応している。また、医師からも情報提供もして頂いている。	本人、家族の希望するかかりつけ医となり、毎月「主治医連絡票」を作成し、事業所での利用者に関する状態を報告し、連携している。受診の送迎や付き添いを家族に依頼したり職員が行って適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の体調の変化や異変に気づいた時は、直ぐに提携医の意見を聞くなどし、救急の場合には119番にて指示を仰ぐなどして対応している。利用者が適切な受診、処置が受けられるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院されたら必ず面会に伺い、病院の連携室の相談員に退院が決まり次第連絡して頂く様お願いし、退院後の生活を本人家族と一緒に検討している。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所までできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の対応指針を作成し、家族や本人の希望に応じた対応が出来るよう配慮している。今後の方向についてはその都度、かかり付け医や家族、事業所と話し合いを行い、方針を決めている。	利用開始時に重度化や終末期に向けた対応指針を本人、家族に説明している。重度化した場合は、早い段階から主治医や家族と話し合い、家族の理解が得られるように努め、方針を共有している。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	定期的に研修の機会を設けている。消防署の協力を得て、応急手当、救急法の訓練を行い実践できるように備えている。また、事故防止に向けて、ヒヤリ・ハットや検討会などを開き防止に向けて備えている。	マニュアルを作成し、ヒヤリはつと報告書や事故報告書に記入して検討し事故防止に努めている。年1回のAED(救命救急)講習は家族も参加している。応急手当や初期対応の定期的な訓練(火傷や脳梗塞の手当など)を実施し、実践力を身につけている。	
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間避難訓練なども消防署の意見を取り入れ実際に暗くなってからの避難訓練を実施した。地域の方の協力もあり参加者も多かった。定期的に訓練を開催することで職員が災害時の対応を身につけることが出来ている。	消防署の協力のもとで、年2回通報・避難・消火訓練を実施し、(うち1回は夜間に実施)、初期消火や避難方法を身につけるように努めている。近隣の人も2~3人参加している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人ファイル等は、書庫にて保管している。特に日常の言葉掛けに配慮し、本人の人格を尊重するよう努めている。特にトイレ誘導などは、他の人に気づかれないように配慮している。	マニュアルがあり、「人格の尊重とプライバシーの確保」について内部研修で学び、利用者一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮した言葉かけや対応をしていくように取り組んでいる。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いを表出できるよう働きかけたり、自己決定を促すような話しかけに配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れは決まっているが、その日の状態に合わせて利用者のペースを大切に、外出や散歩など行っている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着物が好きな方には、着物で過ごしていただきその人らしく過ごしていただけるよう配慮している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のときは気の合う人同士で席を決めたり、食事のときは、あえてテレビをつけたり、家庭と同じ環境に近づけ楽しみながら食事をしてもらうようにしている。時には、さやえんどうのすじ取りやお好み焼きを一緒に作るなどして楽しんでいる。	三食とも事業所で調理している。時には外食、お店での弁当選び、誕生会でのにぎり寿司、戸外(動物園)で弁当を食べるなど、食事が楽しみなものになるように工夫している。利用者は、野菜の下ごしらえや下膳、食器洗いなどできることを職員と一緒にしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士がカロリーを考慮しながら献立をたてており、食事量の調整や食事形態を工夫している。水分摂取量を把握しており、日ごろから水分不足にならないようチェックしている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行い、口腔機能の向上、維持に努めている。肺炎予防のため、口腔ケアには力を入れている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	本人の訴えや排泄パターンを知るところで出来る限りトイレでの排泄が行えるよう支援している。また状態に応じてポータブルトイレでの排泄介助も同様に行っている。	排泄チェック表に記入して排泄パターンを把握し、一人ひとりに応じたトイレ誘導等で排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘は不穏の要因となるため、十分な水分摂取と適度な運動を行い、便秘予防に努めている。食事に寒天を使用することにより、水分や食物繊維が多く取れるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	ある程度一週間の予定は決めているが、その日の状態や本人の気分により変更している。早朝、夜間入浴も行い、利用者のニーズに依っている。	15時30分から夕方までいつでも入浴できる。希望に応じて早朝や夜間の入浴の支援もしている。入浴を嫌がる場合には無理強いをせず、声かけを工夫して支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	家族から家庭での様子を伺い寝具等も出来るだけ家庭と同じようにセットしている。安心して気持ちよく眠れるように努めている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服薬一覧表にて服薬内容の把握、用法、用量について理解している。薬局との連携を図り、粉碎、一包化など協力を得ている。また、服薬拒否などへの対応のため、ゼリー、ジャム等を使用し工夫している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月、音楽レクレーションを月に二回手話を交えながら季節にあった歌を歌いタオル体操などを行っている。また、習字教室やボランティアの方などの参加もあり、活気に満ちた生活をしている。	ボランティアの講師による尺八、習字、墨絵、音楽療法、歌、ダンス等が利用者の楽しみごとになっている。被災地に送る千羽鶴折、新聞折、メモ作り、食器洗い、洗濯物たたみ、水遣り、畑づくりなど、一人ひとりの力量にあった活躍できる場面をつくって支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	事業所の玄関前のテラスでくつろいだり、移動パン屋の利用、近くの神社や公園の散歩、地域内にあるコンビニエンスストアでの買い物、外食やドライブなど戸外に出かけられる機会を設けている。	近くの神社や公園への散歩、コンビニや移動パン屋等での買い物、外食、ふるさとへのドライブ、家族との外出など、戸外に出かけられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員と共にコンビニや本屋に買い物に行き、本人が楽しみながら選択し支払いも行っている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話が出来る人はいないので、職員が電話をかけて本人と家族が会話できる機会を作っている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた置物、しつらえに配慮し利用者が心地よく過ごせるように努めている。また、利用者と共に毎月のカレンダー等を作成している。	玄関やフロアには季節の花が生けられ、季節の置物が飾られている。台所の調理の様子が眺められ、窓から見える景色(新緑等)から季節感を感じることができ、家庭的な温かい雰囲気居心地よく過ごせるよう工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室は開放しており、自分の思うところ過ごせるよう配慮している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭の寝室に近づけ、ベッドの向き、寝具、環境づくりに配慮している。中には畳みを敷いている方もいる。	使い慣れた家具やテレビ、ベットや畳みなどが持ち込まれ、壁には子供や孫の写真、利用者の手作り作品を飾って居心地の良く過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る限り本人の能力を活かせるように手すりや福祉用具なども活用している。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム周南

作成日：平成 23年 4月 22日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	39	利用者に活気がなく笑顔が少ない	思いや意向を大切にした介護の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・アセスメントにおいて言葉で表現されない利用者の思いを汲みとり、利用者の意向が実現できる介護を実践する。 ・利用者に役割をお願いし「ありがとう」という言葉をそえる。 ・職員の活動を具体的に家族に話をすることで 	3ヶ月
2	14	新人教育において認知症の勉強が実施されていない。	認知症の理解を深め、個別ケアができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・新人教育において認知症の勉強を実施する。 ・「なんのために」を考えながら、利用者の立場になってケアが出来るようにしていく。 	3ヶ月
3	11	行事、レクリエーションなどに参加し、利用者が楽しんでいる様子を家族へ定期的に報告していないため、家族がグループホームの活動を理解していない。	家族にグループホームでの活動、介護実践を理解してもらい信頼を得る。	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月、利用者の様子や写真を「おたより」にくわしく掲載し発行、送付する。 ・家族会などで利用者の日々の活動や様子を話して理解してもらい協力をお願いする。 	1ヶ月
4	42	1500カロリーでは、高齢者の1日のカロリーとして多い。	1200カロリーの食事の提供	<ul style="list-style-type: none"> ・1200カロリーの食事の提供を行う。 	1ヶ月
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。